

Reader's Voice

2014年秋号・第1特集「保育の質を高める遊びの『理解』と『援助』」、 第2特集「『保育の専門性』を生かした保護者支援」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生がたからのご意見をご紹介します。

*『これからの幼児教育』のバックナンバーは、「ベネッセ教育総合研究所」のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

- ◎「生涯にわたり学ぶ力の土台が、遊びを通して形成される」。このことを保育者自身が、子どもの姿、子どもの遊びから読み取り、自分の言葉で語れるようになることが大切だと思います。私たちが子どもと日々、繰り返し広げている遊びは、こんなに豊かで、こんな学びがあるのだと、自信をもって言えるようになりたいと思いました。「遊びの意味を読み取る視点」と『理解』から『援助』につなぐための記録の視点」は具体的でよくわかり、すぐに取り入れたいと思いました。(愛知県・公立保育園)
- ◎私たちは子どもの遊びについて、それが何らかの発達や成長のためになるようにという思いから、つい1から10までお膳立てしがちです。子どもが自発的に遊んでいるときには、見守っていいのだという意見は私にとって大きな学びでした。(熊本県・その他保育所)
- ◎同僚との間に「今日はうまくいかなかったなあ」と愚痴を言える関係があればという意見には、強く共感しました。ささいなつづやきも受け入れ合える職場であれば、アクシデントへの対応も迅速になるでしょう。(北海道・私立幼稚園)
- ◎新卒で採用した保育者が、日々の業務の中で主任や園長とのコミュニケーションがうまく取れず、保護者の対応がその個人の技量に大きく左右されることが起きてい

- ました。第2特集の記事を回覧することで、日々のコミュニケーションが取りやすくなったとともに、共通の認識をもてるようになりました。(神奈川県・私立幼稚園)
- ◎第2特集で、全ての保護者は「その子の親でありたいと願っている」「親としての力をもっている」と明言されていて、救われた思いがしました。保育者の職務は厳しく、多忙ではありますが、保護者が変わったから保育が大変になったのではなく、育児や保育は本来大変な取り組みだということを、基本認識に据えることが大事だと思いました。(北海道・私立保育園)
- ◎現場では「子どもはかわいいけれど、保護者が…」という言葉も聞きます。そのため、第2特集のように具体的な事例を出して解説してくださるのは参考になりました。保育の専門家だからこそできる保護者支援があることを、改めて知らされました。さらに「保育の専門性」を高めていきたいと思います。(群馬県・私立幼稚園)
- ◎これまではついトップダウンになりがちで、保育者全員の意見を聞いていても、園長が提案したことが決定事項になり、意見を求めても下を向いてしまう保育者もいました。特別企画を参考に、ワークショップ型の園内研修を始めてからは、それらがなくなったように思います。(愛知県・認定こども園)

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

私は新人時代、1日の仕事の振り返りのために日誌を書かねばなりませんでしたが。当時は何を書いてよいかかわらず、時間もかかり、苦手意識がありました。園の若手の先生も日々の振り返りに対して同じ思いかもしれません。そのような先生がたに、振り返りのそのその意味や観点、明日への生かしかななどを伝えることで、毎日の振り返りが楽しくなるかもしれないと今号の取材で感じました。(橋村)

『これからの幼児教育』2015年春号

2015年2月4日発行

発行人 谷山和成
 編集人 小泉和義
 発行所 (株)ベネッセホールディングス
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 二宮良太
 撮影協力 ヤマガチイッキ
 イラスト協力 アサマリカ

お問い合わせ先

◎情報編集室
 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34
 電話：042-311-3390
 ※本誌は最新号・バックナンバー等の追加発送は行っていません。すべての記事はベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからPDFでご覧いただけます。ぜひご利用ください。
<http://berd.benesse.jp/>